

## 予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算      支出科目 款：商工費    項：商工費    目：工鉱業振興費

### 事業名    革新的モノづくり技術開発プロジェクト

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部    産業技術課    技術支援係    電話番号：058-272-1111 (内 3096)

E-mail：c11352@pref.gifu.lg.jp

1    事業費                                    23,369 千円 (前年度予算額：62,339 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	62,339	8,891	0	0	0	0	26,666	0	26,782
要求額	23,369	9,480	0	0	0	0	0	0	13,889
決定額	23,369	9,480	0	0	0	0	0	0	13,889

## 2    要求内容

### (1) 要求の趣旨 (現状と課題)

工業技術研究所、産業技術センター、情報技術研究所を統合した産業技術総合センターにおいて、これまで各研究所が蓄積してきた各分野（機械・金属・プラスチック・化学・石灰・繊維・紙・情報・メカトロニクス）の基盤技術を活用し、地域産業の得意分野を融合させた革新的モノづくり技術を開発し、県内企業の付加価値の高い成長分野への転換を支援する。

また、相次ぐデータ改ざんの不祥事を受け、企業への品質管理要求が高まっていることから、不良・欠陥などのクレーム対策や電磁波対策などの高度な評価・分析技術を確立し、地域企業の品質管理への対応を支援する。

### (2) 事業内容

#### 【新たな材料・素材の開発】

これまでに蓄積した炭素繊維複合材料 (CFRP) の関連技術に、植物繊維 (CNF)、美濃和紙などの技術を加え、航空機や次世代自動車の素材として求められている、低コストな軽量強化材料を開発する。

#### 【新たな生産技術の開発】

これまでに蓄積した3Dデジタルエンジニアリング技術の更なる普及・向上を図る

とともに、IoT・AI 技術により人手に頼っている作業工程の省力化・効率化を進め、製品の品質・低コスト化による地域産業の競争力強化を支援する。

**【評価・分析技術の高度化】**

・ 高度な分析試験

複数の機器・手法を有機的に組み合わせた、腐食等による損傷の原因を究明するための高度な分析技術の開発。

・ EMC 電波試験

IoT 技術の普及や車の EV シフト等により急激に需要の伸びている、製品のノイズ対策や電磁波漏れ対策などの高度な電磁波対策技術の開発。

**(3) 県負担・補助率の考え方**

新たに県研究機関の中核となる産業技術総合センターにおいて革新的な技術開発・技術支援を実施することで、県内企業の付加価値の高い成長産業への転換を戦略的に進める。

**(4) 類似事業の有無**

無

**3 事業費の積算内訳**

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	1,694	職員旅費（企業、共同研究機関との打合せ、学会参加）
需用費	6,976	研究開発のための各種消耗品
委託料	440	部材の外注加工、試作品製作委託
使用料	847	研究開発機器の使用料
備品購入費	12,485	研究備品の購入、書籍（規格書）
負担金等	927	有識者への報償費、試作品運搬費、学会参加負担金等
合計	23,369	

**決定額の考え方**

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業  
 継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか  
 岐阜県成長・雇用戦略2017の「企業技術力強化支援プロジェクト」に沿って、新たに統合・整備する産業技術総合センターを中心に各分野（機械・金属・化学・情報等）の研究員が連携し、地域産業の得意分野を融合した革新的モノづくり技術を開発し、本県産業の持続的発展を支援する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R1)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
① 技術移転の推進	0件	5件	5件	5件	6件	83%

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和2年度	・取組内容と成果を記載してください。 ○「セルロースナノファイバー（CNF）を用いたマルチマテリアル化」に取り組み、企業との共同研究により4件（3社）の特許出願を行った。 ○「AI技術を活用した検査工程の省力化・効率化」に取り組み、県内企業と連携して、AI技術を活用した画像検査システムと異物監視システムを開発し、技術移転した。
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____%

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	県の成長・雇用戦略と合致しており、新たに統合・整備した産業技術総合センターを活用して地域企業の求める革新的技術開発を進めるプロジェクトであり、必要性が高い。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	研究課題の内容について、ヒアリングを行い本年度実施内容の確認を行うとともに、進捗確認を行った。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	研究課題に対する外部評価を実施することとしており、得られた意見に応じた軌道修正、および効率化を図る。

### (今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 ○ 地域企業のニーズに基づいて、柔軟に対応していく必要がある。
---

### (次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか ○ 業種別懇談会等で得られる企業ニーズに基づき、技術開発の方向性を微修正し、時節に応じた最新の技術開発支援を進める。
---